

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

### 23. アマナ（ユリ科アマナ属）

#### *Amana edulis* (Miq.) Honda

2015年3月

日当たりのいい草原や土手、田んぼの畔などに生育する多年草です。かつては日本自生のチューリップとして *Tulipa* 属に入れられていましたが、花が小型で葉は線形、花茎に苞があり、花粉の形態が異なることから独立の属になりました。属名も和名そのままの *Amana* 属で日本には2種が生育しています。地下の比較的深いところに高さ2~4 cmの広卵形の鱗茎があります。葉は2個あり、線形で長さ15~25 cm、幅5~10 mmで先は尖り、葉鞘は地中に埋まっています。花は3~4月に10~20 cmの花茎に1花つけます。花被片は6個、披針形で長さ20~25 mm、白色に暗紫色の脈が入ります。開花には日射が必要となります。花茎には2個の苞があります。分布は本州（福島県以西）、四国、九州、奄美大島、朝鮮、中国で、兵庫県ではほぼ全域に見られ、姫路市においても土手などに生育しています。名前の由来は鱗茎が甘いところからで、甘菜といわれ食用にされます。類似種にヒロハノアマナ (*Amana latifolia* (Makino) Honda) があり、葉の幅が10~20 mmと広く、中央に白線が入るのが特徴です。さらに花茎にある苞は3個で、アマナが2個で同定のポイントとなります。本種の分布は本州（関東~近畿）、四国に限られ、県下では丹波地域でしか確認されていない貴重な種類で、兵庫県版レッドデータブック2010のAランク、近畿版レッドデータブック2001のAランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストのVUランクの絶滅危惧種です。



アマナ



ヒロハノアマナ